

や腹方へ向かって細長く、鋭く伸長している。その長さは跗節第3節の突出部よりもわずかに長い。表面は浅く粗い網目状の印刻に被われている。爪の基部は広がっているが、2本の爪の境界部は前後で対称的ではなく、前方の爪基部が拡大して、後方の爪基部を覆っているように見える。後方の爪は小さく、前方の爪の半分程度の長さ。先端へ向かって細まり、腹方へ湾曲する。先端は鋭くとがる。

考察

本種♂の中脚跗節の奇怪な構造は、5節の環節と前後の爪からなる跗節において、第3～5節背面が異常な形に伸長し、また前後の爪が非対称な形に発達したことによる。なぜこの種だけがそのような形に変化したのか、なぜ♂だけが変化したのか、なぜそのような形になったのか、ある程度推測ができそうな材料は何もなく、現時点では皆目見当もつかない。

このような原因の解明のためには、さらなる採集記録ばかりでなく、生態的知見の集積が必要だが、残念ながら現時点では本種は、北海道においても希少種の一つと言わざるを得ないほどであり、生態的知見には非常に乏しい。今後の本種に関する採集例、観察例の蓄積に期待したい。

謝辞

本研究の一部は科研費新学術領域「生物規範工学」の計画研究「バイオミメティクス・データベース構築」(課題番号:24120002;代表者:野村周平)およびJST受託研究費「階層的に構造化されたバイオミメティック・ナノ表面創製技術の開発」の助成を受けている。

引用文献

- Borowiec, L., 2013. *Aulonothroscus laticollis* (Rybiński, 1897), Coleoptera Poloniae (22th Apr. 2013 last updated). <http://coleoptera.ksib.pl/search.php?img=14919> (5th Nov. 2013 access).
- Makarov, K. V., 2007. *Aulonothroscus laticollis* Rybinski (Throscidae) –atlas of beetles of Russia –photo by K. V. Makarov, Beetles (Coleoptera) and Coleopterologists (7th Jan. 2007 last updated). <http://www.zin.ru/animalia/coleoptera/eng/aulatkm.htm> (5th Nov. 2013 access).
- Mertlik J. & L. Leseigneur, 2007. *Druhy celedi Throscidae* (Coleoptera: Elateroidea) České a Slovenské republiky (The species of the family Throscidae (Coleoptera: Elateroidea) Czech and Slovak Republics). *Elateridium*, 1: 1–55.
- Metsähallitus, 2011. Extremely rare species of beetle living in Eastern Finland (24th Nov., 2011 last updated). <http://www.outdoors.fi/destinations/nationalparks/linnansaari/nature/extremelyrarebeetle/Pages/Default.aspx> (5th Nov. 2013 access).
- 平野幸彦, 2013. ヒゲトコメツキ科について. 神奈川虫報, (180): 27–31.

(2013年11月24日受領, 2014年2月6日受理)

【短報】コガタガムシを種子島で採集

コガタガムシ *Hydrophilus bilineatus cashimirensis* Redtenbacher, 1892 は本州, 四国, 九州から琉球列島にかけて分布が知られているが, 種子島における記録は確認できなかった(東, 2002; 松井, 1988; 松井, 2003; 松井ほか, 1988; 大坪, 2013). 筆者は種子島を訪れた際に採集していることから, 本島からの初記録として報告する。

1ex., 鹿児島県熊毛郡中種子町坂井, 2. I. 2013, 下野誠之採集・保管(図1).

採集地は島の東側に位置し, 県道75号に面した田である。田には水が張られていなかったが背後の山林から染み出た水が流



図1. 種子島産コガタガムシ

入し, その水は畔に沿って設けられた浅い素掘りの溝によって道路側溝へと誘導されていた。採集した個体は, 落葉や浮遊性の水生シダ等によって流れが堰き止められた箇所をタモ網で掬っていたところ, 網内に入ったものである。

報告にあたり, 愛媛大学ミュージアムの吉富博之氏からは種子島における本種の分布記録や文献について, 久留米市の今坂正一氏からは近年の情報と文献をご教示いただいた。厚くお礼を申しあげます。

引用文献

- 東 清二(監修), 2002. 琉球列島産昆虫目録増補改訂版. 沖縄生物学会: 174.
- 松井英司, 1988. 1987年水生昆虫採集記(種子島). SATSUMA, (99): 1–10.
- 松井英司, 2003. 鹿児島県で採集された水生昆虫類. SATSUMA, (128): 11–16.
- 松井英司・高井 泰・田辺 力, 1988. 鹿児島県の水生甲虫相. SATSUMA, (100): 61–115.
- 大坪修一, 2013. 種子島で採集観察した甲虫の記録②(2002年4月～2007年8月). SATSUMA, (149): 1–50.

(下野誠之 740-0004 岩国市昭和町 1-1-15-1303)